

保 健 体 育

1 高等学校学習指導要領の改訂に向けて（中央教育審議会答申より）

(1) 改善の方向性

ア 現行の学習指導要領の課題

中央教育審議会では、保健体育科の課題を次のように整理している。

【体育の課題】

- ・習得した知識や技能を活用して課題解決することや、学習したことを相手に分かりやすく伝えること等に課題があること
- ・運動する子どもとそうでない子どもの二極化傾向が見られること
- ・子どもの体力について、低下傾向には歯止めが掛かっているものの、体力水準が高かった昭和60年ごろと比較すると、依然として低い状況が見られること

【保健の課題】

- ・健康課題を発見し、主体的に課題解決に取り組む学習が不十分であり、社会の変化に伴う新たな健康課題に対応した教育が必要であること

(2) 具体的な改善事項

ア 学習過程の改善

- ・体育については、スポーツとの多様な関わり方を楽しむことができるようにする観点から、運動に対する興味や関心を高め、技能の指導に偏ることなく、「する、みる、支える」に「知る」を加え、保健体育科で育成を目指す「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」の三つの資質・能力をバランスよく育むことができる学習過程を工夫し、充実を図る。また、粘り強く意欲的に課題の解決に取り組むとともに、自らの学習活動を振り返りつつ、仲間と共に課題を解決し、次の学びにつなげる主体的・協働的な学習過程を工夫し、充実を図る。
- ・保健については、健康に関心をもち、自他の健康の保持増進や回復を目指して、疾病等のリスクを減らしたり、生活の質を高めたりすることができるよう、知識の指導に偏ることなく、三つの資質・能力をバランスよく育むことができる学習過程を工夫し、充実を図る。また、健康課題に関する課題解決的な学習過程や、主体的・協働的な学習過程を工夫し、充実を図る。

イ 教育内容の改善・充実

(ア) 科目「体育」について

- ・各領域で身に付けたい具体的な内容を、資質・能力の三つの柱に沿って明確に示す。特に、「思考力・判断力・表現力等」及び「学びに向かう力・人間性等」の内容の明確化を図る。また、体力や技能の程度、年齢や性別及び障がいの有無等に関わらず、運動やスポーツの多様な楽しみ方を社会で実践することができるよう配慮する。
- ・体を動かす楽しさや心地よさを味わうとともに、健康や体力の状況に応じて自ら

体力を高める方法を身に付け、運動やスポーツの習慣化につなげる観点から、体づくり運動の内容等について改善を図る。

- ・スポーツの意義や価値等の理解につながるよう、内容等について改善を図る。特に、知識に関する領域において、オリンピック・パラリンピックの意義や価値及びドーピング等の内容等について改善を図る。

(イ) 科目「保健」について

- ・個人及び社会生活における健康・安全についての総合的な「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」の育成を重視する観点から内容等の改善を図る。その際、少子高齢化や疾病構造の変化による現代的な健康課題の解決に関わる内容や、ライフステージにおける健康の保持増進や回復に関わる内容及び一次予防のみならず、二次予防や三次予防に関する内容を改善するとともに、人々の健康を支える環境づくりに関する内容の充実を図る。また、科目体育と一層の関連を図り、心身の健康の保持増進や回復とスポーツとの関連等の内容等について改善を図る。

ウ 学習・指導の改善充実や教育環境の充実等

体育科、保健体育科における資質・能力を育成するための学びの過程は、「主体的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」の三つの学習・指導の改善・充実の視点に基づき、以下のとおり整理することができる。

- (ア) 「主体的な学び」は、運動の楽しさや健康の意義等を発見し、運動や健康についての興味や関心を高め、課題の解決に向けて粘り強く自ら取り組み、それを考察するとともに学習を振り返り、課題を修正したり新たな課題を設定したりする学びの過程と捉えられる。各種の運動の特性や魅力に触れたり、自他の健康の保持増進や回復を目指したりするための主体的な学習を重視するものである。

- (イ) 「対話的な学び」は、運動や健康についての課題の解決に向けて、生徒が他者（書物等を含む）との対話を通して、自己の思考を広げ深めていく学びの過程と捉えられる。自他の運動や健康についての課題の解決を目指して、協働的な学習を重視するものである。

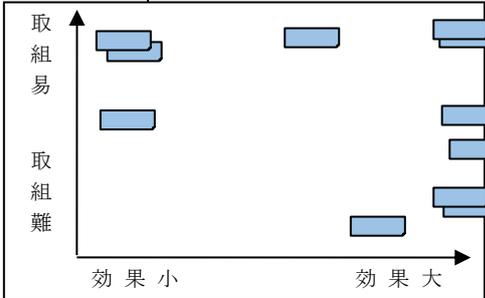
- (ウ) 「深い学び」は、自他の運動や健康についての課題を発見し、解決に向けて試行錯誤を重ねながら、思考を深め、よりよく解決する学びの過程と捉えられる。生徒の発達の段階に応じて、これらの深い学びの過程を繰り返すことにより、保健体育科の「見方・考え方」を豊かで確かなものとするを重視するものである。

- (エ) 「主体的・対話的で深い学び」の過程を踏まえて、体育については、学習したことを実生活や実社会で生かし、運動やスポーツの習慣化につなげたり、体力や技能の程度、年齢や性別及び障がいの有無等に関わらず、スポーツとの多様な関わり方を場面に応じて選択したりすることができるよう、教材の工夫やICTの活用を図ることが重要である。保健については、同様に、健康に関する課題解決的な学びや生徒の多様なニーズ、興味や関心を踏まえ、教科書を含めた教材を工夫することが重要である。また、保健の知識・技能、思考力・判断力・表現力等の育成を目指してICTの活用を図ることが重要である。

2 資質・能力を育成する学習指導の改善・充実

(1) 学習指導の改善・充実を図るための教科研修の例

学習指導の改善・充実を図るためには、校内研修等を通じて授業改善に努めることが重要である。ここでは、「主体的・対話的で深い学び」の視点から、研究授業を参観した後、個人やグループで分析して、学習指導の改善・充実のための方策を共有する教科研修の例を示す。

ねらい	体育の授業参観において、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善の方策について理解を深めるとともに、教科内で学習指導の改善・充実に係る共通理解及び共通実践の契機とする。																																						
時間 (110分)	内容	備考																																					
5分	研修のねらい、流れの説明 <ul style="list-style-type: none"> 事前に録画した授業の映像を参加者全員で視聴した後、「主体的・対話的で深い学び」の視点から、生徒の学びを深めるための方策について協議を行い、教科で共通して取り組む実践につなげる。 																																						
40分	題材となる授業の参観 <ul style="list-style-type: none"> 参加者が事前に録画した授業を見ながら付箋に気付いた点等を記載する。 	<ul style="list-style-type: none"> 黄色の付箋に、「主体的・対話的で深い学び」につながる生徒の活動を記載する。 																																					
10分	付箋に記載された情報の共有 <ul style="list-style-type: none"> 拡大学習指導案に参加者が記載した付箋を貼付し、参加者の気付いた点等を共有する。 	<table border="1"> <thead> <tr> <th>段階</th> <th>学習内容・学習活動</th> <th>指導上の留意点</th> <th>評価の観点及び方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">導入 10分</td> <td>1. 集会、整列、挨拶、出陣準備</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2. 出陣準備、健康確認</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3. 本時の学習内容の説明・確認</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4. 準備運動、陣形運動 5. ランニング、陣形運動 6. 陣形直し運動</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="4">展開 35分</td> <td>1. 受け身 ○後ろ受け身・移動しながら行っていく。 ○前受け身・一人一人確認しながら確認させる。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2. 前受け身受け身・グループで出来栄を確認する。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3. 前受け身の条件と相手方と対応力 ○前受け身の条件の確認 ○ホワイトボードに掲載して確認させる。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4. 危険な体勢の確認 ○「思った」の体勢の確認 ○正しい体勢の確認の両方を確認していき、危険な体勢の確認をしながら確認していく。危険な体勢の確認を繰り返すようにさせる。 ○思った体勢は必ず確認を繰り返す。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">閉 5分</td> <td>3. 振り返り ○振り返りシートを配布する。 ○振り返りシートを配布する。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4. 振り返り ○振り返りシートを配布する。 ○振り返りシートを配布する。</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	段階	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価の観点及び方法	導入 10分	1. 集会、整列、挨拶、出陣準備			2. 出陣準備、健康確認			3. 本時の学習内容の説明・確認			4. 準備運動、陣形運動 5. ランニング、陣形運動 6. 陣形直し運動			展開 35分	1. 受け身 ○後ろ受け身・移動しながら行っていく。 ○前受け身・一人一人確認しながら確認させる。			2. 前受け身受け身・グループで出来栄を確認する。			3. 前受け身の条件と相手方と対応力 ○前受け身の条件の確認 ○ホワイトボードに掲載して確認させる。			4. 危険な体勢の確認 ○「思った」の体勢の確認 ○正しい体勢の確認の両方を確認していき、危険な体勢の確認をしながら確認していく。危険な体勢の確認を繰り返すようにさせる。 ○思った体勢は必ず確認を繰り返す。			閉 5分	3. 振り返り ○振り返りシートを配布する。 ○振り返りシートを配布する。			4. 振り返り ○振り返りシートを配布する。 ○振り返りシートを配布する。		
段階	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価の観点及び方法																																				
導入 10分	1. 集会、整列、挨拶、出陣準備																																						
	2. 出陣準備、健康確認																																						
	3. 本時の学習内容の説明・確認																																						
	4. 準備運動、陣形運動 5. ランニング、陣形運動 6. 陣形直し運動																																						
展開 35分	1. 受け身 ○後ろ受け身・移動しながら行っていく。 ○前受け身・一人一人確認しながら確認させる。																																						
	2. 前受け身受け身・グループで出来栄を確認する。																																						
	3. 前受け身の条件と相手方と対応力 ○前受け身の条件の確認 ○ホワイトボードに掲載して確認させる。																																						
	4. 危険な体勢の確認 ○「思った」の体勢の確認 ○正しい体勢の確認の両方を確認していき、危険な体勢の確認をしながら確認していく。危険な体勢の確認を繰り返すようにさせる。 ○思った体勢は必ず確認を繰り返す。																																						
閉 5分	3. 振り返り ○振り返りシートを配布する。 ○振り返りシートを配布する。																																						
	4. 振り返り ○振り返りシートを配布する。 ○振り返りシートを配布する。																																						
10分	教師の手立ての洗い出し <ul style="list-style-type: none"> 共有した「主体的・対話的で深い学びにつながる生徒の活動」を基に「生徒の学びを深める教師の手立て」を洗い出す。 水色の付箋に、生徒の学びを深める教師の手立てを記載する。 																																						
20分	洗い出した教師の手立ての分類 <ul style="list-style-type: none"> マトリックス法により、「効果」と「取組」を軸に分類する。 																																						
																																							
																																							
25分	協議・まとめ <ul style="list-style-type: none"> 分類したものを基に、教科で取り組む内容を協議し、授業改善につながる方策についてまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 単元を通して生徒に身に付けさせる力を踏まえて、①すぐに取り組める方策、②教科内で共通して取り組む方策について共有実践につなげる。 																																					

(2) 「主体的・対話的で深い学び」の視点を取り入れた「体育」の実践例

粘り強く意欲的に課題の解決に取り組むとともに、自らの学習活動を振り返りつつ、仲間と共に課題を解決し、次の学びにつなげる主体的・協働的な学習過程を工夫し、充実を図るための指導計画の例を次に示す。

「主体的な学び」の視点

- ・ プリント法を配付し、説明を高める意識をもち、主体的に学習に取り組む。

「対話的な学び」の視点

- ・ ねらいと心を開き、主体的に学習に取り組む。

「深い学び」の視点

- ・ 安全配慮を考慮し、主体的に学習に取り組む。

「柔道」単元構造図 高等学校 2年次

学習の流れ	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	本時のねらいの明示 環境整備(掃除や安全の確認など)・出席、健康確認・準備運動 体力を高めるトレーニング(各自のレベルや課題に応じた内容を選択)									
10	オリエンテーション(柔道における事故防止の説明)	1年次の復習(ペア)移動・崩し・受け身	基本動作定着のためのドリル(各自の課題やレベルに応じて)、崩し、受け身など			得意技の練習(ペア)打ち込み 約束稽古など				
20		1年次の復習(ペア)移動・崩し・受け身	体さばき(ペア) 内股 巴投げ 浮き技の習得(グループ)	体さばき(ペア) 既習技から得意技を見付ける(約束稽古)	連絡技の説明・考案 そのための崩し、仕掛ける技、決める技の習得		体重別の総当たり戦			
30	1年次の復習(ペア)移動・崩し・受け身	1年次の復習(グループ)体さばき・既習技	乱取り	乱取り	得意技の習得(2種類) 約束稽古・見取り稽古	得意技の練習 約束稽古 見取り稽古		①競技者 ②審判 ③評価者(ワークシート)		
40			乱取り	乱取り	上級者乱取り可					
50	整理運動、振り返り(ペアやグループにて)、 振り返り共有(全体共有) →復習内容の確認・次時の説明									

- ・ 自己レベルに合わせた学習(対話的)

- ・ 効果的な連絡網を構築し、協議(対話)

- ・ 見取り稽古の活用(深い)

ICTの活用



- ・ 習得した技を積極的に活用(深い)

- ・ 適切な指導(適切な)

- ・ 主体的な学習(主体的)

- ・ 対話的な学習(対話的)

- ・ 深い学び(深い)

- ・ 協働的な学習(協働的)

- ・ 主体的な学習(主体的)

- ・ 対話的な学習(対話的)

- ・ 深い学び(深い)

- ・ 協働的な学習(協働的)

- ・ 主体的な学習(主体的)

- ・ 対話的な学習(対話的)

- ・ 深い学び(深い)

- ・ 協働的な学習(協働的)

- ・ 主体的な学習(主体的)

- ・ 対話的な学習(対話的)

- ・ 深い学び(深い)

- ・ 協働的な学習(協働的)

- ・ 主体的な学習(主体的)

- ・ 対話的な学習(対話的)

- ・ 深い学び(深い)

- ・ 協働的な学習(協働的)

- ・ 主体的な学習(主体的)

- ・ 対話的な学習(対話的)

- ・ 深い学び(深い)

- ・ 協働的な学習(協働的)

- ・ 主体的な学習(主体的)

- ・ 対話的な学習(対話的)

- ・ 深い学び(深い)

- ・ 協働的な学習(協働的)

- ・ 主体的な学習(主体的)

- ・ 対話的な学習(対話的)

- ・ 深い学び(深い)

- ・ 協働的な学習(協働的)

- ・ 主体的な学習(主体的)

- ・ 対話的な学習(対話的)

- ・ 深い学び(深い)

- ・ 協働的な学習(協働的)

- ・ 主体的な学習(主体的)

- ・ 対話的な学習(対話的)

- ・ 深い学び(深い)

- ・ 協働的な学習(協働的)

- ・ 主体的な学習(主体的)

- ・ 対話的な学習(対話的)

- ・ 深い学び(深い)

- ・ 協働的な学習(協働的)

- ・ 主体的な学習(主体的)

- ・ 対話的な学習(対話的)

- ・ 深い学び(深い)

- ・ 協働的な学習(協働的)

- ・ 主体的な学習(主体的)

- ・ 対話的な学習(対話的)

- ・ 深い学び(深い)

- ・ 協働的な学習(協働的)

- ・ 主体的な学習(主体的)

- ・ 対話的な学習(対話的)

- ・ 深い学び(深い)

- ・ 協働的な学習(協働的)

- ・ 主体的な学習(主体的)

- ・ 対話的な学習(対話的)

- ・ 深い学び(深い)

- ・ 協働的な学習(協働的)

- ・ 主体的な学習(主体的)

- ・ 対話的な学習(対話的)

- ・ 深い学び(深い)

- ・ 協働的な学習(協働的)

- ・ 主体的な学習(主体的)

- ・ 対話的な学習(対話的)

- ・ 深い学び(深い)

- ・ 協働的な学習(協働的)

- ・ 主体的な学習(主体的)

- ・ 対話的な学習(対話的)

- ・ 深い学び(深い)

- ・ 協働的な学習(協働的)

- ・ 主体的な学習(主体的)

- ・ 対話的な学習(対話的)

- ・ 深い学び(深い)

- ・ 協働的な学習(協働的)

- ・ 主体的な学習(主体的)

- ・ 対話的な学習(対話的)

- ・ 深い学び(深い)

- ・ 協働的な学習(協働的)

- ・ 主体的な学習(主体的)

- ・ 対話的な学習(対話的)

- ・ 深い学び(深い)

- ・ 協働的な学習(協働的)

- ・ 主体的な学習(主体的)

- ・ 対話的な学習(対話的)

- ・ 深い学び(深い)

- ・ 協働的な学習(協働的)

- ・ 主体的な学習(主体的)

- ・ 対話的な学習(対話的)

- ・ 深い学び(深い)

- ・ 協働的な学習(協働的)

- ・ 主体的な学習(主体的)

- ・ 対話的な学習(対話的)

- ・ 深い学び(深い)

- ・ 協働的な学習(協働的)

- ・ 主体的な学習(主体的)

- ・ 対話的な学習(対話的)

- ・ 深い学び(深い)

- ・ 協働的な学習(協働的)

- ・ 主体的な学習(主体的)

- ・ 対話的な学習(対話的)

- ・ 深い学び(深い)

- ・ 協働的な学習(協働的)

- ・ 主体的な学習(主体的)

- ・ 対話的な学習(対話的)

- ・ 深い学び(深い)

- ・ 協働的な学習(協働的)

- ・ 主体的な学習(主体的)

- ・ 対話的な学習(対話的)

- ・ 深い学び(深い)

- ・ 協働的な学習(協働的)

- ・ 主体的な学習(主体的)

- ・ 対話的な学習(対話的)

- ・ 深い学び(深い)

- ・ 協働的な学習(協働的)

- ・ 主体的な学習(主体的)

- ・ 対話的な学習(対話的)

- ・ 深い学び(深い)

- ・ 協働的な学習(協働的)

- ・ 主体的な学習(主体的)

- ・ 対話的な学習(対話的)

- ・ 深い学び(深い)

- ・ 協働的な学習(協働的)

- ・ 主体的な学習(主体的)

- ・ 対話的な学習(対話的)

- ・ 深い学び(深い)

- ・ 協働的な学習(協働的)

- ・ 主体的な学習(主体的)

- ・ 対話的な学習(対話的)

- ・ 深い学び(深い)

- ・ 協働的な学習(協働的)

- ・ 主体的な学習(主体的)

- ・ 対話的な学習(対話的)

- ・ 深い学び(深い)

- ・ 協働的な学習(協働的)

- ・ 主体的な学習(主体的)

- ・ 対話的な学習(対話的)

- ・ 深い学び(深い)

- ・ 協働的な学習(協働的)

- ・ 主体的な学習(主体的)

- ・ 対話的な学習(対話的)

- ・ 深い学び(深い)

- ・ 協働的な学習(協働的)

- ・ 主体的な学習(主体的)

- ・ 対話的な学習(対話的)

- ・ 深い学び(深い)

- ・ 協働的な学習(協働的)

- ・ 主体的な学習(主体的)

- ・ 対話的な学習(対話的)

- ・ 深い学び(深い)

- ・ 協働的な学習(協働的)

- ・ 主体的な学習(主体的)

- ・ 対話的な学習(対話的)

- ・ 深い学び(深い)

- ・ 協働的な学習(協働的)

- ・ 主体的な学習(主体的)

- ・ 対話的な学習(対話的)

- ・ 深い学び(深い)

- ・ 協働的な学習(協働的)

- ・ 主体的な学習(主体的)

- ・ 対話的な学習(対話的)

- ・ 深い学び(深い)

- ・ 協働的な学習(協働的)

- ・ 主体的な学習(主体的)

- ・ 対話的な学習(対話的)

- ・ 深い学び(深い)

- ・ 協働的な学習(協働的)

- ・ 主体的な学習(主体的)

- ・ 対話的な学習(対話的)

- ・ 深い学び(深い)

- ・ 協働的な学習(協働的)

- ・ 主体的な学習(主体的)

- ・ 対話的な学習(対話的)

- ・ 深い学び(深い)

- ・ 協働的な学習(協働的)

- ・ 主体的な学習(主体的)

- ・ 対話的な学習(対話的)

- ・ 深い学び(深い)

- ・ 協働的な学習(協働的)

- ・ 主体的な学習(主体的)

- ・ 対話的な学習(対話的)

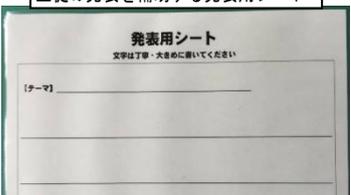
(3) 「主体的・対話的で深い学び」の視点を取り入れた「保健」の実践例

地域の統計データを用いて北海道の健康課題を把握し、課題発見及び解決に向けた学習活動を行い、身近なデータを基に課題の発見と解決をグループで検討することにより、生徒が自他の健康に関心を持ち、主体的に課題解決に取り組み、仲間との対話や協働を通して、学びを深めることをねらいとしている。

ここでは、(1) 現代社会と健康 イ健康の保持増進と疾病の予防の「主体的・対話的で深い学び」の視点を取り入れた単元計画と具体の指導例を示す。



【単元計画と具体の指導例】

	主な学習内容	学習活動	
第1時	<p>生活習慣病とその予防</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活習慣病が、日常の生活行動と深い関係があること。 生活習慣病の予防には、一次予防と二次予防が必要なこと。 	<ol style="list-style-type: none"> 単元の流れと学習内容を確認する。 生活習慣病にはどのようなものがあり、その発病や進行と日常の生活行動との関係について整理する。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒間のコミュニケーションを促進する。 生徒が主体的に自己課題を解決する。
	<p>がんとその予防</p> <ul style="list-style-type: none"> がんを引き起こす要因には、生活習慣、ウィルス、細菌など、様々なものがあること。 がんを予防する上で、健康な生活習慣の維持と早期発見・早期治療が必要なこと。 <p>生徒の発表を補助する発表用シート</p>  <p>机間巡視の際に、全体で共有したい意見を記載している生徒に手渡す。 ※ラミネート・水性ペン使用</p>	<ol style="list-style-type: none"> 前時の復習を行い、がんは身近な病気であることを確認する。 既知のがんの種類をあげ、罹患数の多いがんを知る。 がんの発生機序について、資料を基に知る。 がんを引き起こすと考えられる要因を話し合い、発表し、整理する。 健康な生活習慣とがんとの関係、胃がんの病期5年生存率のグラフを読み取って分析し、説明する。 グラフを読み取り分析したことを踏まえて、各自が今後取るべき行動について、まとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 北海道の喫煙率やがんの罹患率に関するデータを調べ、その傾向を分析する。 生徒間の話し合いを促し、共通の課題を特定する。 思考力、判断力、問題解決能力を高める。 生徒が主体的に課題を解決し、学習成果を発表する。
第3時	<p>虚血性心疾患、脂質異常症、歯周病などの生活習慣病とその予防</p> <ul style="list-style-type: none"> 虚血性心疾患、脂質異常症、歯周病などの生活習慣病には、食事、運動、休養及び睡眠などの日常生活が関係していること。 生活習慣病を予防し、健康を保持増進するには、適切な食事、運動、休養及び睡眠など、調和のとれた健康的な生活を実践することが必要であること。 	<ol style="list-style-type: none"> 前時の復習。 虚血性心疾患、脂質異常症、歯周病とはどんな疾病であるかを整理する。 虚血性心疾患、脂質異常症、歯周病の原因を整理し、それらの予防のために、調和のとれた健康的な生活を実践する上で、どのような課題があるかを考え、整理する。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が主体的に課題を解決し、学習成果を発表する。 生徒間の話し合いを促し、共通の課題を特定する。 思考力、判断力、問題解決能力を高める。 生徒が主体的に課題を解決し、学習成果を発表する。

Topic

オリンピック・パラリンピック教育の推進に向けて

1 スポーツの価値とオリンピック・パラリンピック教育の意義

(1) スポーツの価値

- ・スポーツは、精神的な充足感や楽しさ・喜びをもたらし、人々が生涯にわたり心身ともに健康で文化的な生活を営む基盤となる。スポーツには、自己充実・自己変革を促す力、社会や世界を変える大きな力がある。

(2) オリンピック・パラリンピックの理念とオリンピック・パラリンピック教育の意義

- ・オリパラ教育の推進には、オリンピックの3つの価値（卓越 Excellence、友情 Friendship、敬意/尊重 Respect）とパラリンピックの4つの価値（勇気 Courage、決意 Determination、平等 Equality、インスピレーション Inspiration）が必要である。
- ・オリパラ教育は、スポーツの価値の再認識を通じ、国際的な視野を持って世界の平和に活躍できる人材を育成するものである。

(3) オリンピック・パラリンピック教育の具体的内容

- ・オリンピック・パラリンピックそのものについての学び（大会に関する知識、選手の体験・エピソード等）
- ・オリンピック・パラリンピックを通じた学び（スポーツの価値、参加国・地域の文化等、共生社会、持続可能な社会等）

2 各機関におけるオリンピック・パラリンピック教育（以下、「オリパラ教育」）の推進のための方策

- ・学校現場での取組の推進（教育委員会によるオリパラ教育のプラン策定、学校運営計画への位置付け等）
- ・教材や事例集等の開発・共有の推進（国によるモデル教材等の開発、東京都や組織委員会が作成した教材・事例集の共有、地域の状況に応じた追加・拡充等、IPC・JPCが連携・開発したIPC公認パラリンピック教材の試験運用）
- ・特別支援学校における一層の取組の推進（「Specialプロジェクト2020」等）、教員養成・研修の取組
- ・東京大会の観戦（特にパラリンピック競技を観戦する動機付けを高めるための取組）
- ・学習指導要領への位置付け（中央教育審議会における学習指導要領の改善の審議に際して、パラリンピックの学習指導要領への位置付けをはじめ、オリパラ教育に関して東京大会後を見据えた審議が行われることを期待）

がん教育の推進

日本人の死亡原因の1位であるがんについて、子どもたちが関心を持って正しく理解し、適切な態度や行動を取ることができるようになることが求められている。

平成28年12月にがん教育が法律に位置付けられ、新学習指導要領（中学校）においてもがんを取り扱うことが明記されたことなどから、がん教育の一層の充実を図る必要がある。

文部科学省はがん教育推進のための教材を作成しており、授業のねらいに合わせて自由にアレンジできるものなど、ホームページからダウンロードして活用することができる。

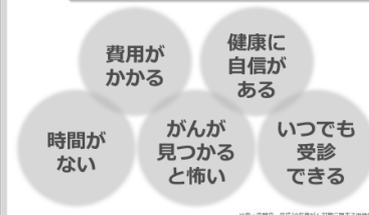
がんの正しい知識を習得するとともに、「健康と命の大切さ」について考え、生徒が主体的に考え、行動する力を育成することを目的に以下の3つの要素を組み込み、プログラムを構成しています。

限られた時間の中で実施が可能となる選択型「モジュール形式」

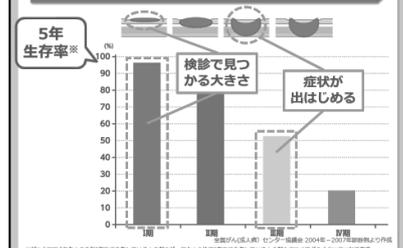
がんについて正しい知識を提供する医療関係者監修教材

生徒の主体的な思考を促す「アクティブ・ラーニング」

Q がん検診を受けない理由は何だろう



がんの進行度と5年生存率の関係



「中学校・高等学校版 がん教育プログラム 補助教材」文部科学省